

データベースシステムの概要

システムの概要

- 知床世界自然遺産地域の適正な管理に必要な科学的情報・各種関係情報の共有を図るため、地図情報・調査情報・文献情報等を収集し統合するもの。
- 各 W/G での議論や今後の調査モニタリング方針の検討等に活用するもの。

システムの構造

- ポータルサイトから下記の各種 DB へアクセスできる HP を現在作成中
本 HP は閲覧者から各種情報の追加が可能。
地図 DB：規制情報・自然情報・調査情報等の地理情報のデータベース。
エゾシカ・河川・海域・植物に関しては Web-GIS を作成中。
文献 DB：知床に関する論文・調査報告書・書籍等のデータベース。
文献情報の入力、PDF データの追加、情報検索が可能。
調査 DB：調査情報（調査項目・調査年・調査地域・調査者）のデータベース。
その他：会議イベント情報・科学委員会資料・予定表

今後の予定

- 関係行政機関・科学委員会委員を始めとした学識経験者を中心に情報を更新していきながら、来年度以降一般へ一部公開していく。

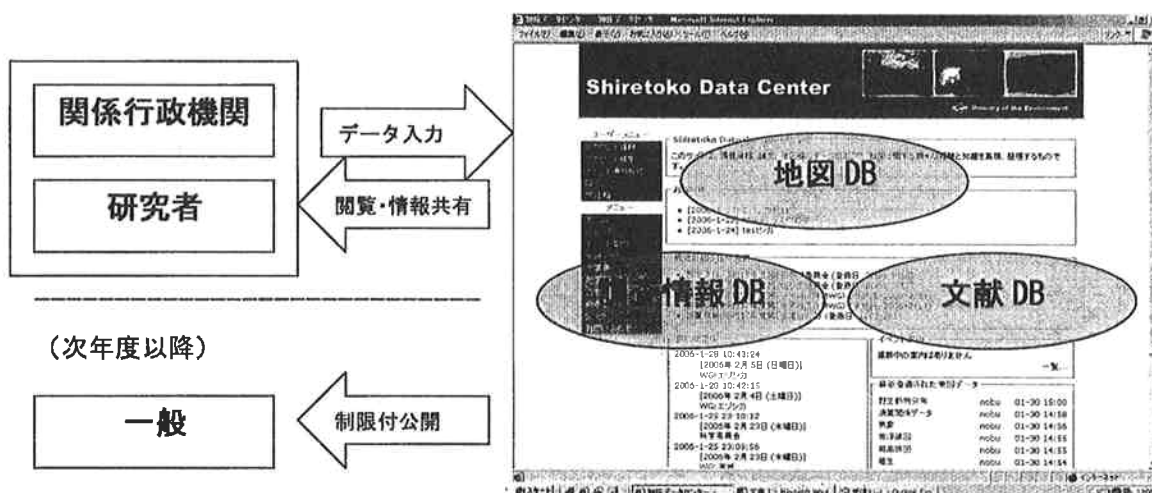


図. データベースの構造イメージ図

2005年調査結果と2006年度調査予定

高橋英樹（北大総合博物館）

2005年8月6～7日、相泊～知床沼間の往復約20^{km}を踏査し、ルート沿いの維管束植物の証拠標本を作成した。専修大学北海道短期大学の石川教授、知床博物館の内田学芸員等による調査に同行させていただいた。採取標本は全部で215点・約150種だが、正式な種リストは現在作成中である。05年度はこの1回きりの調査だった。

これまでの報告によると、知床半島全域から維管束植物は900種類（種以下の亜種、変種、品種を含み）近くが記録されている。しかし鮫島・佐藤（1981）時点では、175種類がまだ記録のみで未確認であるとされる。このような状況から、2006年度調査予定として、①北大標本庫の知床産標本を確認し、これまでの採取年代、採取地点等の記録を入力、DB化する、②できるだけ多くの地点で証拠標本を採取する、ことを考えている。これらにより、知床半島全域での各種の分布パターンが明らかになり、また移入種の知床半島への移入年代の推定等もおこなえると期待している。